

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のために捧げられる諸教会のお祈りと御支援を心から感謝致します。

震災から7年9ヶ月が過ぎ、被災地の様子も人々の生活も少しずつ変化してきているようです。

教会の近くにある、かつては避難所だった水産高校も新校舎が完成し、その裏では「分譲住宅」の旗が立ち並び、建設が進められています。

しかし、津波被害の大きかった海沿いの地域は、まだまだ家もまばらです。

最近、教会のポストに「真光」からのチラシが2回も入っていました。

また礼拝に集っておられる姉妹が住む、さくら町復興住宅を訪問したところ「エホバの証人」のグループが複数、その地域を訪問していました。

今年になって、さくら町復興住宅付近も多くの家が建てられ、来年には空き地がなくなってしまうほどの勢いであることも関係しているかもしれません。

親しくなった方々からは震災後に「エホバの証人」とは知らず、聖書の学びをしたことがあることとお聞きしました。でも、おかしいと思い、学びはやめたそうです。

イエス様が「バプテスマのヨハネの日から今に至るまで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。(マタイ 11:12)」と語られた御言葉を思い出し、同時に焦りも感じました。

目と鼻の先にある水産高校の生徒が、教会の前を通過して駅に向かって行くのを見るたびに、若者たちのための働き手、協力者を主が送って下さるようにと祈られます。

『教会は、働き人の年齢に近い人々が集う』と言われてるように、確かに、石巻教会に集っておられる方々の年齢は高齢の方が多いのです。

しかし「神にとって不可能なことは何もありません(ルカ 1:37)」の御言葉を見上げ、主は石巻教会にどのようなことをして下さるのか、約束を信じて祈りつつ歩んで行きたいと願っています。

(高橋勝義)

【祈りの課題】

1. 主が、まことの神を求める方々を起こして下さり、礼拝につながりますように。
2. 月二回(第一水曜日と第三金曜日)の「お茶っ会」が用いられるように。
3. 来年の宣教ビジョンが果たえられるように。
4. 2019年3月9日(土)「森祐理・希望のコンサート」のために。
(森祐理姉の健康が支えられ、人々が一歩踏み出すコンサートとなるように)



この日のお茶っこ会は、仙台教会から土川夫妻が来て下さり、ピアノとクラリネットのミニコンサートでした。

懐メロの演奏が始まると、歌詞カードがないにもかかわらず、皆さん口ずさんでおられました。お茶っこ会に来られている方々は、地域の敬老会に入っていて、そこではカラオケもありますから、歌詞はすべて頭の中に入れておられるようです。

楽しそうに歌っておられる姿を見て、歌の持つ力を実感させられたと同時に、教会で歌う賛美がそれぞれの家から聞こえてくる…そんな日が早く来てほしい、と思われました。

送迎の車の中の出来事ですが、「震災前、この建物はスーパーマーケットだったんだよ」と教えて下さいました。教会の近くを散歩している時、シャッターは閉められていますが、それなりの建物なので何の建物であったのか疑問に思っていました。

また、この渡波地区には、映画館があったと聞いていましたが、そのスーパーマーケットの近くにあったことも教えて頂きました。みんな津波で壊滅したのです。

更に「ここは〇〇ちゃんの家で私の同級生」とか、地元で生まれ地元で育った方々ならではの地域の話や情報が飛び交います。

小さな集まりですが、どなたも月二回のお茶っこ会をとっても楽しみにしておられるようです。

「是非お茶を」と言われ、お邪魔させて頂いたお宅のカレンダーには、「キリスト」と書かれていました。これは何だろうと思い、注意深く日付を見ると、「お茶っこ会の日」だった、ということもありました。このお茶っこ会には、必ず15分のショートメッセージの時間があることを承知で、十数名の方々が確実に集って下さっているのです。本当に感謝なことです。

漬物、煮物、ふかし芋、そして庭の花も持って来て下さいます。季節のお花は「神様、渡波のお花です。どうぞ、この地を祝福して下さい。」と祈りつつ、講壇用に用いさせて頂いています。

月二回のお茶っこ会がマンネリ化しないように知恵が与えられ、楽しい集会になるようにお祈り下さい。また、皆さんの心が開かれ、聖書の神様が、分かるようにもお祈り下さい。

設立4周年記念礼拝「いのちありがとうパート2」 10月28日(日)



10月28日の設立4周年記念礼拝は、7月の「フレンドシップサンデー礼拝」に引き続き、名古屋から服部真光先生をお迎えして、記念伝道礼拝を持つことが出来ました。

服部先生のメッセージは「皆さんは取扱説明書をお読みになりますか？」という問いかけから始まりました。「電子レンジは温め機能しか使っていないのではありませんか？本当はもっとたくさん、便利な機能があるのですよ。」さらに「この聖書は『取扱説明書』なのですが、どんなことを取り扱っているのでしょうか？それは、私たち自身についての取説なのです。ですから聖書を読めば、私たちがどう生きれば良いのか、が分かるのです。」また、「聖書の中の聖書とされているヨハネの福音書3章16節『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』には、神と人との関係がすべて記されています。聖書の神は、八百万の神々の中の一つではなく、今も生きておられるまことの神なのです。そしてイエス・キリストは、その神様のひとり子であり、私たちのためにこの世界に来てくださったお方なのです。」と年配者向けにプロジェクターを用いながら、分かりやすく語っていただきました。

この日は赤飯と豚汁40人分の昼食を用意することに決めましたが、心の中では、「何人来るのだろう」という思いとの戦いでした。いつものように、チラシをお届け案内すると、「予定が入っていて行けない」という返事が続き、落ち込んでしまいました。また、ハガキも70枚近く送りましたが、何人来られるのか全く見当もつきません。震災から8年目になり、人々の生活も思いも変化していると、マイナスの考えも湧いてきてしまい、不信仰の連続、悔い改めの日々でした。

しかし、いつもの方々は来る事が出来なくても、神様は別な方々をお送りくださり、ピッタリ40人の礼拝でした。また前日には、お茶っこの会のメンバーが庭の小菊をいっぱい抱えて来てくださり、感謝して講壇に活けることも出来ました。神様がこの地の人々のために建ててくださった教会を祝福してくださる、と感じる礼拝でした。どうぞ、この渡波の人々が救い主イエス・キリストに心を開くことができますように、また救われますように、お祈り下さい。

☆礼拝人数：40名

☆石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。